

VENUES LIST

開館時間、休館日がそれぞれ違いますのでご注意ください。各会場入場は閉館の30分前まで。(02は下記参照)
● チケットの一般料金(学生[大学・高校・専門学校]料金) ※中学生以下は無料(16以外/02は別途入城料金が必要)/70歳以上は100円引き/身障者は無料、付き添いは通常料金

会場一覧

01 虎屋 京都ギャラリー
フランス国立ギメ東洋美術館・写真コレクション
Theater of Love
〒602-0911 京都市上京区一条通烏丸西入広橋殿町400
虎屋東京 京都一条店 横
10:00-17:00 休:4/24(会期は5/15まで) ● 入場無料
地下鉄烏丸線「今出川」駅 6番出口から徒歩7分

02 二条城 二の丸御殿台所・東南隅櫓
アーノルド・ニューマン
マスタークラス ーポトレットの巨匠ー
presented by BMW
特別展示: BMW アート・カー by アンディ・ウォーホル
〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541
9:30-17:00 ※二条城への入場は16:00まで 無休
4/15、16は18:00-21:30も開催(最終入城21:00)
● 400円(400円)
別途二条城の入城料金が必要となります。(一般料金600円ほか)
地下鉄東西線「二条城前」駅1番出口から徒歩1分

03 堀川御池ギャラリー1・2階
山城知佳子 | 土の唄
〒604-0052 京都市中京区押油小路町238-1
11:00-19:00 休:月曜 ● 600円(400円)
地下鉄東西線「二条城前」駅 2番出口から徒歩3分

04 ギャラリー素形
ジャダ・リバ | The Yokohama Project 1867-2016
presented by Ruinart
〒604-0021 京都市中京区室町通二条下ル蛸薬師町271-1
10:00-19:00 休:4/24、5/8 ● 入場無料
地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池」駅 2番出口から徒歩4分

05 鳩臺ギャラリー
ハンネ・ファン・デル・ワウデ | Emmy's World
〒604-0844 京都市中京区御池通東洞院西北角
11:00-19:00 休:水曜(5/3以外) ● 600円(400円)
地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池」駅 1番出口から徒歩1分

06 元・新風館
吉田亮人 | Falling Leaves
〒604-8172 京都市中京区烏丸通姉小路下ル場之町586-2
10:00-20:00 無休 ● 無料
地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池」駅 5番出口から徒歩1分
併設するKG StoreではKYOTOGRAPHIEの
関連書籍やグッズを販売します。

07 元・新風館(姉小路壁面)
スーザン・バーネット | Not In Your Face
〒604-8172 京都市中京区烏丸通姉小路下ル場之町586-2
壁面に常時展示 無休 ● 無料
地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池」駅 5番出口から徒歩1分

08 京都文化博物館 別館1階
ラファエル・ダラボルタ | ショーヴェ洞窟
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
10:00-19:00 休:月曜 ● 1000円(800円)
地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池」駅5番出口から徒歩3分

09 京都文化博物館 別館2階
ルネ・グロブリー | The Eye of Love
supported by NESPRESSO
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
10:00-19:00 休:月曜 ● 入場無料
地下鉄東西線または烏丸線「烏丸御池」駅5番出口から徒歩3分

Main Sponsor 協賛_Sponsors

全てのプログラム内容、展覧会名、会場に関しましては3月1日現在のもので、予告なく変更になる可能性があります。最新情報はHPにてご確認ください。

18 立命館大学国際平和ミュージアム
DAYS JAPAN フォトジャーナリズム写真展
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
9:30-16:30(金曜:-19:00 会期は7/9まで)
休:月曜、4/30、5/6
● 一般=400円/中・高生=300円/小学生=200円(団体割引あり)
市バス15・50・51・55・59系統で「立命館大学前」バス停から徒歩5分
市バス204・205系統で「わら天神前」バス停から徒歩10分

PASSPORT パスポート料金
チケットとパスポートは有料会場にて販売(16を除く)/
各会場1回のみ有効/中学生以下は全会場無料(16/18以外)
別途二条城の入城料金が必要となります。(一般料金600円ほか)
パスポート(16を除く全会場に会期中各1回のみ入場可能)
一般=3,000円
一般プチパスポート(16を除く3会場/1日のみ有効)=1,500円
学生(大学・高校・専門学校)=2,000円

前売パスポート(16を除く全会場を会期中各1回のみ入場可能)
一般=2,500円
びあ、イープラス(e+)にて発売中。
(前売価格は4月14日まで、4月15日以降は通常価格)

SPECIAL EVENTS (お申し込み、詳細はHPまで) www.kyotographie.jp

スペシャルイベントも多数開催
約60におよぶ多彩なパブリックプログラム
出展アーティストやキュレーター、豪華ゲストによるトークイベント
や子ども向けイベントなど、様々な関連イベントを開催。
ライブ・パフォーマンス: 現代のピカソと呼ばれるスペインの画家
ミケル・バルセロがバスケ・コムラードの演奏とともにライブ・
ペインティングをします。
カメラの中で世界を体験する: 人が入れる移動式巨大カメラ
が京都市内に出現します。自分の普段見ている世界がズレる
感覚を体験しましょう。
原摩利彦 ピアノコンサート: ダラボルタ展のサウンドを手がける
原摩利彦が、ショーヴェ洞窟の幻想的な映像が映し出される
巨大インスタレーション前でピアノをライブ演奏します。
ゴリラ楽とトーク: 大蔵流狂言師茂山千三郎が、ゴリラ研究
の第一人者である京都大学総長山極壽一の指導を仰ぎ始めた
創作狂言を上演。あわせて両者のトークも開催します。
週末とゴールデンウィークには、ガイドツアーが開催されます。
著名なインスタグラマーと会場を巡るインスタグラムツアー
も開催予定。

14 ASPHODEL
TOILETPAPER
Maurizio Cattelan & Pierpaolo Ferrari
presented by FUJIFILM
〒605-0085 京都市東山区八坂新地末吉町99-10
11:00-19:00 休:水曜(5/3以外) ● 800円(600円)
京阪「紙園四条」駅 3番出口から徒歩7分、
阪急「河原町」駅 1番出口から徒歩10分

15 FORUM KYOTO
ザネレ・ムホリ
Somnyama Ngonyama | 黒き雌ライオン、万歳
〒604-8015 京都市中京区東木町通四上る鍋屋町209-2
12:00-20:00 休:月曜 ● 600円(400円)
京阪「紙園四条」駅 4番出口から徒歩3分、
阪急「河原町」駅 1A番出口から徒歩1分

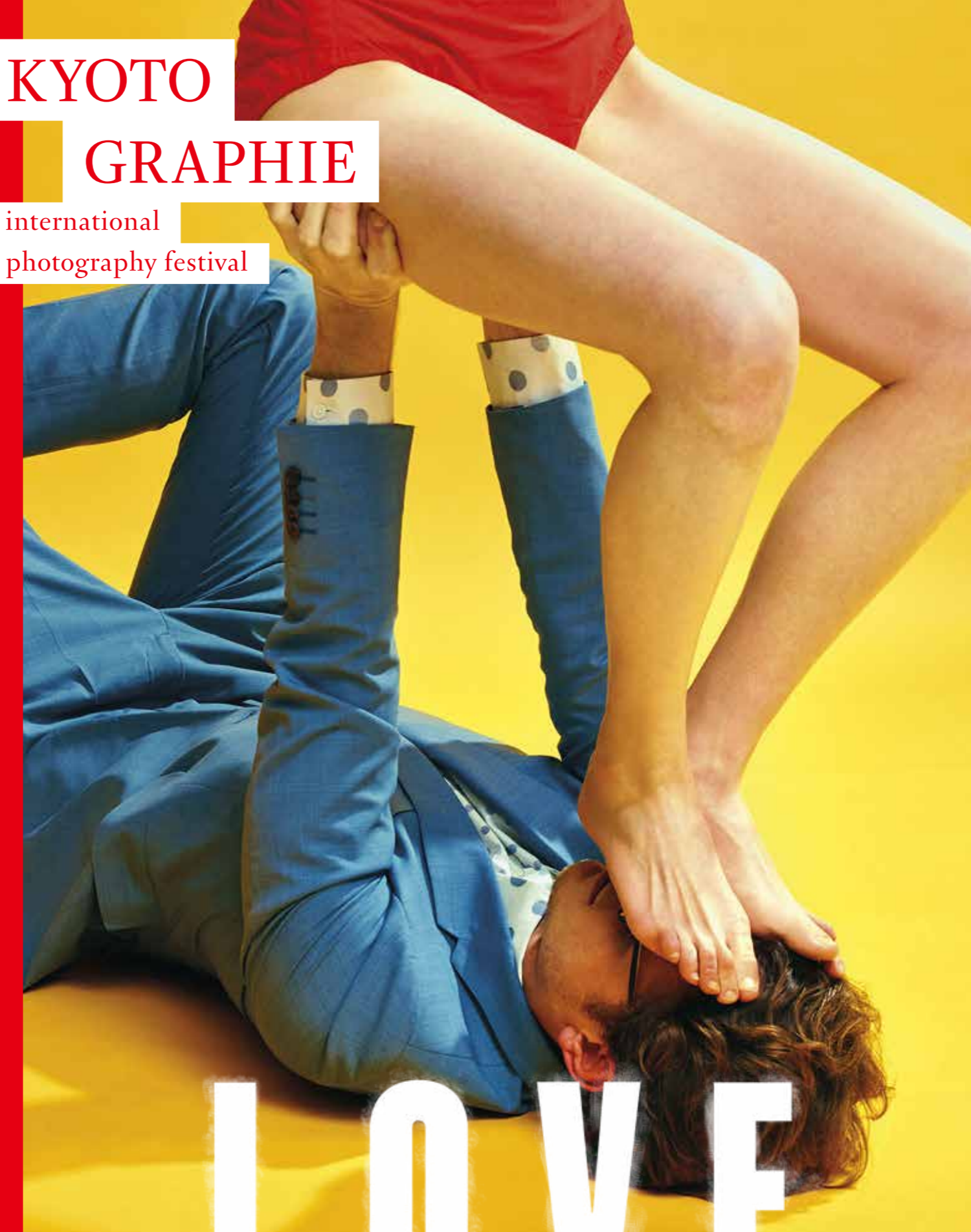
ゴールデンウィーク 特別共同企画
16 美術館「えき」KYOTO
amour, amours- from my photography collection
アニエスベー フォトコレクション
(会期:4/26-5/14)
〒600-8555 京都駅ビル内ジェイアル京都伊勢丹7階隣接
10:00-20:00 無休
● 一般=900円、学生(大学・高校・専門学校)=700円
小・中学生=500円(団体割引あり)
※ KYOTOGRAPHIEパスポート・プチパスポート提示で200円引き
JR、近鉄、京都市営地下鉄烏丸線「京都」駅下車すぐ

サテライトイベント KG+ **KG+**
市内約60カ所ですべて同時多発的に開催される写真展が、サテ
ライトイベント「KG+(ケージープラス)」として集結します。
「KG+AWARD」が与えられた最優秀作家は、次年度の
KYOTOGRAPHIEへ参加できます。次代を担うアーティスト
たちの作品に出会うことのできる、またとないイベントです。

【お問い合わせ】KYOTOGRAPHIE 事務局
〒602-0898 京都市上京区相国寺門前町670番地10
670-10 Shokokujimonzen-cho,
Kamigyō-ku, Kyoto 602-0898
info@kyotographie.jp Tel & Fax: +81(0)75 708 710
インターン/サポートスタッフ募集中!詳細はHPまで

KYOTO GRAPHIE

international photography festival



京都国際写真祭

2017 04 15 SAT — 05 14 SUN

Main Sponsor **BMW** 主催: 一般社団法人 KYOTOGRAPHIE | 共催: 京都市/京都市教育委員会

Photography by TOILETPAPER: Maurizio Cattelan and Pierpaolo Ferrari.

ABOUT KYOTOGRAPHIE

KYOTOGRAPHIEについて

世界屈指の文化都市・京都を舞台に開催される、日本で最も数少ない国際的なフォト・フェスティバル「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」。世界で活躍する写真家の貴重な作品や秀逸な写真コレクションに、寺院や通常非公開の歴史的建造物、モダンな近現代建築という特別な空間で出会えます。2013年以来毎年春に開催され、回を重ねるごとに好評を博し、これまでに約25万人の来場者を迎えました。第5回目となる2017年は、数十名のアーティストが参加し、16ヶ所にて展示が開催されます。関連イベントも多数同時開催され、あらゆる角度から写真の奥深さや可能性を体感することができるフェスティバルです。

2017 “LOVE”

2017年のテーマ「LOVE」

人類はさまざまな形の愛のもと多様性を維持し、社会を形成しながら、子孫繁栄といういわば種の保存のための戦略をとり、自然界に存在しています。私たちが「愛」と呼ぶ感覚や概念は、宗教観、歴史観、地域性、生活環境など、個々のバックグラウンドによりそれぞれ異なります。その差異や軋轢が、時に愛を憎悪へと反転させ、時に無関心という愛の大きな欠如となり、殺人、戦争、社会的弱者へのいわれのない暴力など、現代社会が抱える深刻な事態へと発展させます。だからこそ私たち人類は、愛がいかに偉大で必要不可欠ものであるかを知り、いわば本能的に多種多様な愛を求めて止みません。

パリに所在するフランス国立ギメ東洋美術館は、ルーヴル美術館から移設された彫刻、絵画、装飾品などを数多く収蔵し、非アジア圏で東洋美術をあつかう施設として最大規模を誇る。京都で3度目のコラボレーションとなる本展では、「愛」をテーマに、19世紀末から20世紀初頭に撮影された日本の婚礼に関わる写真作品や、花魁の写真作品を展示する。写真に直接手彩色がほどこされた作品も展示され、当時の日本の文化や風俗を伝える古写真が一堂に会す、貴重な機会となる。

山茂堂「結婚式」1870年代 © MNAAG.

01 虎屋 京都ギャラリー TORAYA Kyoto Gallery

フランス国立ギメ東洋美術館 写真コレクション Guimet National Museum of Asian Arts, Photographic collections Theater of Love



マリリン・モンローやバブロ・ピカソ、ジョン・F・ケネディ等、数多くの著名人を撮影したアメリカの肖像写真家アーノルド・ニューマン(1918-2006)の、没後初となる国内での回顧展。写真の巨匠は、各界の巨匠たちとどのように向き合い、何を写そうとしたのだろうか。被写体が慣れ親しんだ住まいや仕事場を撮影場所とする手法を確立し、「周辺環境ポートレート之父」と呼ばれた彼の傑作群が、二条城の重要文化財である台所と東南隅櫓にて展示される。

「イゴール・ストラヴンスキー、作曲家・指揮者」ニューヨーク、1946年 © 1946 Arnold Newman / Getty Images

02 二条城 二の丸御殿台所 東南隅櫓 Nijo-jo Castle Ninomaru Palace Daidokoro Kitchen Tonan Sumi-yagura (Southeast Watchtower)

アーノルド・ニューマン マスタークラス ーポートレートの巨匠ー 特別展示：BMWアート・カーby アンディ・ウォーホル presented by BMW Arnold Newman “Masterclass” presented by BMW Special show: BMW Art Car by Andy Warhol



出身地・沖縄の歴史や政治、文化等をテーマに、写真や映像、パフォーマンスによる作品を発表してきた山城知佳子。展示作の一つ「土の人」は、あいちトリエンナーレ2016で発表され、大きな話題となった映像作品。軍事基地のある沖縄と韓国済州島を舞台にストーリーが展開され、アメリカと東アジアの関係性や死者と現代を生きる者とのつながりを探る。あわせて写真作品「コロスの唄」(2012)やその他の映像作品も展示。

「土の人」2016年 協力：あいちトリエンナーレ2016 © Chikako Yamashiro, Courtesy of Yukio Chiba Associates

03 堀川御池ギャラリー 1・2階 Horikawa Oike Gallery 1・2F

山城知佳子 土の唄 Chikako Yamashiro The Songs of Mud



アーティストのジャダ・リパは、ある日家族が所有する家で古いアルバムと原稿を発見する。それらは19世紀の報道写真家フェリーチェ・ベアトが横浜に居を構え、幕末・明治の日本の風景を写したポートレート作品や風景写真と、初代駐日イタリア大使夫人として1867年来日したリパの先祖が著した旅行記だった。そして、リパは現代の横浜で撮影を開始。それぞれの作品から、西洋の視点で捉えた日本の今昔と、時空を超えた対話が浮かび上がる。

「The Yokohama Project 1867-2016」シリーズより、2015年 © Giada Ripa

04 ギャラリー素形 Gallery SUGATA

ジャダ・リパ The Yokohama Project 1867-2016 presented by Ruinarit Giada Ripa The Yokohama Project 1867-2016 presented by Ruinarit



前作「自然な赤毛」シリーズ(2005-2008)が高く評価され、世界的に注目された1982年生まれのオランダ人女性写真家ハンネ・ファン・デル・ワUDEが、6年間の歳月をかけて制作した。ドキュメンタリーであり、また個性豊かな老夫婦エミーとベン、その兄弟ら被写体とのコラボレーションとも言えるこの作品には、ささやかでありながら深い愛に包まれた日常と、それを一変させる出来事が、ワUDEの視線を通して記録され、描かれている。

「バスタブに入る兄弟たち」マラコフ、フランス、2011年 © Hanne van der Woude

05 しまない 嶋臺ギャラリー SHIMADAI GALLERY KYOTO

ハンネ・ファン・デル・ワUDE Emmy's World Hanne van der Woude Emmy's World



小学校教師を辞め写真家の道を選んだ1980年生まれの吉田は、写真家を志した頃から、年下の従兄弟と、従兄弟が生まれた時から生活を共にする祖母の関係性を掘り続けていた。80歳を超え、体の弱くなった祖母を献身的に介護していた従兄弟が、ある日突然姿を消す。そして約1年後、落ち葉の積もる山中にて、遺体が発見される。23歳の若さで自ら死を選んだ従兄弟と、彼が発見された翌年に他界した祖母との、どこか不思議な、けれどまばゆい生の日々を追った記録。

「Falling Leaves」2017年 © Akihito Yoshida

06 元・新風館 Former Shinpukan

吉田亮人 Falling Leaves Akihito Yoshida Falling Leaves



Tシャツのバックプリントを世界中で撮影し、「Tシャツ女子」として知られる1951年生まれのスーザン・バーネット。これまで25カ国以上で撮影した本シリーズより、「Life is Love」「愛がすべて」など、「LOVE」にまつわるモチーフが描かれたTシャツを着た人々の後ろ姿が写された写真作品を、元・新風館の仮囲い壁に野外展示する。そこに込められているのは、ファッションという枠組みを超え、信念であり、政治的見解であり、メッセージなのである。

Love Is Everything © Susan Barnett

07 元・新風館 (姉小路壁面) Former Shinpukan (Aneya-koji Wall)

スーザン・バーネット Susan Barnett Not in Your Face Not in Your Face

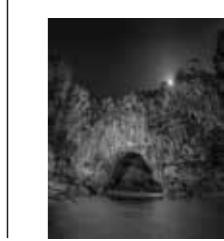


入念な調査とコンセプト的な手法で、多くの意欲作を発表してきたラファエル・ダラポルタは、現存ももっとも注目される若手写真家の一人。日本で初の作品披露となる本作は、ショーヴェ洞窟(フランス)を360度撮影したシリーズ。約36,000年前の世界最古のオートと言われる洞窟壁画が描かれた内部の空間が、ダラポルタの繊密なテクニクにより、大規模な4Kの超高画質モニターによる映像インスタレーションと、展開図を用いて再構成したプリントとで再現される。

「Chauvet – Pont-d'Arc L'inappropriable (Éditions Xavier Barral)」2016年 © Raphaël Dallaporta / Éditions Xavier Barral

08 京都文化博物館 別館1階 The Museum of Kyoto Annex (1F)

ラファエル・ダラポルタ ショーヴェ洞窟 Raphaël Dallaporta The elusive Chauvet – Pont – d'Arc

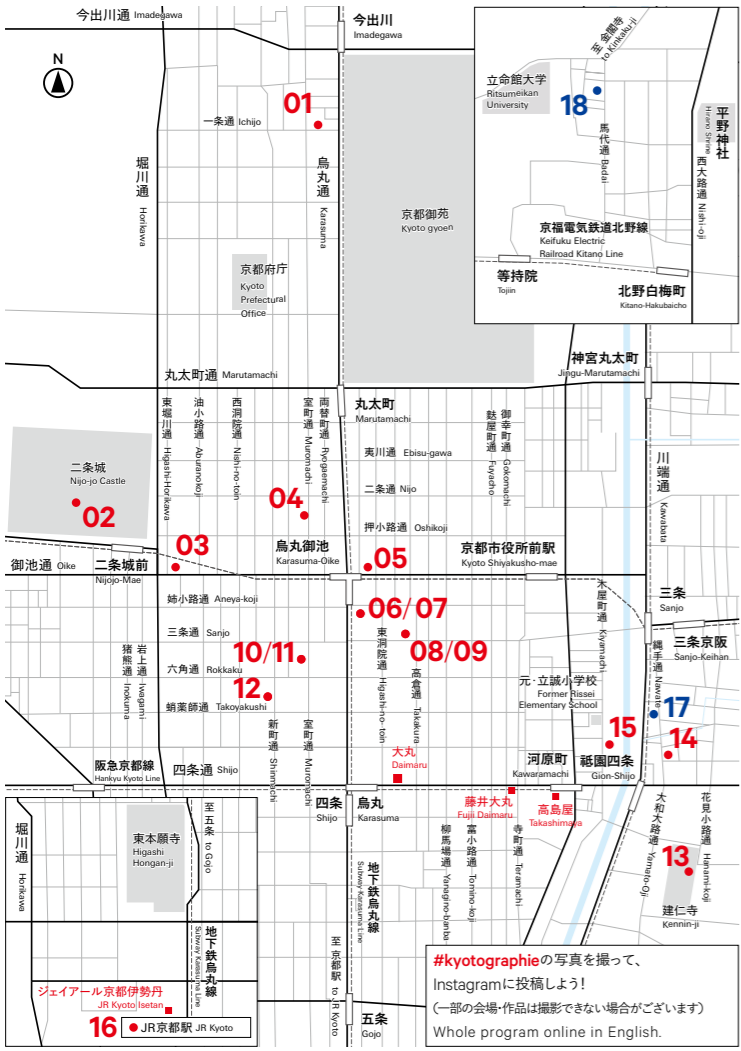


「The Eye of Love」(1954)は、スイスの写真家ルネ・グローブリが妻リタとの新婚旅行を綴った小さな写真集。旅行先のパリやホテルの一室で撮影されたスナップ・ショットには、若い二人の親密な空間が浮かび上がる。当初、私家版として発行されたこのささやかな本は、写真ならではの技法と私的な視線を制作に持ち込んで、新しい写真世界を描き出し、記念碑的な一冊となった。本展では、この写真集に収録された作品のプラチナプリントを展示、紹介する。本格的なコーヒーを提供するネスプレッソを無料でお楽しみいただけるNESPRESSO Love Loungeも併設。

「The Eye of Love. #535」 © René Groebli, The Eye of Love. #535, 1953. Courtesy Galerie Esther Woerdehoff, Paris

09 京都文化博物館 別館2階 The Museum of Kyoto Annex (2F)

ルネ・グローブリ The Eye of Love supported by NESPRESSO



10 菅田屋源兵衛 竹院の間 Kondaya Genbei Chikuin-no-Ma

MEMENTO MORI ロバートメイブルソープ 写真展 ビーター マリーノコレクション presented by CHANEL NEXUS HALL

MEMENTO MORI Robert Mapplethorpe Photographs from the Peter Marino Collection presented by CHANEL NEXUS HALL

卓越した写真技法や構図だけでなく、高度に様式化された、時として物語をかもし写真作品で知られる。日本では2002年以来初めて、この本格個展の開催にあたっては、国際的建築家ビーター・マリーノのプライベートコレクションから、およそ90点の作品が展示される。展示では、メイブルソープ作品における自然美と肉体美、束縛と破壊をテーマに考察し、作家の複雑な二元性に迫る。

「Tulip」1984年 © Robert Mapplethorpe Foundation. Used by permission.

本展では性的な描写を含む作品が展示されています。18歳未満および不快に感じる方はご遠慮ください。



11 菅田屋源兵衛 黒藏 Kondaya Genbei Kurogura

イサベル・ムニョス Family Album / Love and Ecstasy Isabel Muñoz Family Album / Love and Ecstasy

スペインを代表する女性写真家の一人、イサベル・ムニョスを本格的に紹介する、国内初個展。2シリーズにて構成され、「Family Album」はゴリラやチンパンジーなど霊長類を被写体に、家族愛溢れる肖像を写したプラチナプリント作品。ヒトによる家族形成のルーツを探る研究対象としても注目されるゴリラたちに、根源的な愛のあり方を見つめる。「Love and Ecstasy」では、自我を脱却し、時には自らの身体を傷つけながら神に近づくことを希求する信仰者を写した作品等を展示。

《霊長類》シリーズより、キャンプ・リーキー、ホルネオ、2015年 © Isabel Muñoz

「Love and Ecstasy」展では過激な描写を含む作品が展示されています。18歳未満および不快に感じる方はご遠慮ください。



12 無名舎 Mumeisha

殷家樑 (ヤン・カレン) Between the Light and Darkness Yan Kallen Between the Light and Darkness supported by shu uemura

現代日本において、もっとも精力的に“愛”と向き合ってきた写真家といえる荒木経惟。度々世間を騒がせた過激なモードや緊縛ものの作品群を含め、荒木作品の素地には死への意識があり、それが強烈な生や愛を浮かび上がらせている。昨年パリで発表された「机上の楽園」を改題し日本初公開する本展は、6×7のポジフィルムで「即物的に、気に入ったものをポンと置いて」机の上のみで撮影された極彩色の静物写真が、注目される。

「ノコ」-牧神楽具店」2017年 © Yan Kallen



13 両足院(建仁寺内) Ryosokuin (Kenninji Temple)

荒木経惟 机上の愛 supported by shu uemura Nobuyoshi Araki A Desktop Love supported by shu uemura

TOILETPAPERは現代美術家マウリツィオ・カテルランとファッション写真家ピエールパオロ・フェラーリが、アートディレクターにニコル・タルソンを迎えて2010年に発刊したアート雑誌。シュールかつ挑発的なヴィジュアルで、さまざまなジャンルに表現の場を広げてきた。今回は3階建現代建築全棟を使い、彼らの出身国イタリアの食文化やサブカルチャー等々をモチーフに、インパクト溢れる鮮やかな色彩のインスタレーションを展開する。またFUJIFILMの最新カメラGFXを使用し撮り下ろし作品を展示予定。週末には写真家が来場者を撮影したプリントが持ち帰れるTOILETPAPERスタジオが開設される。

Photography by TOILETPAPER. Maurizio Cattelan and Pierpaolo Ferrari.



14 ASPHODEL

TOILETPAPER Maurizio Cattelan & Pierpaolo Ferrari presented by FUJIFILM

ザネレ・ムホリ Somnyama Ngonyama 黒き雌ライオン、万歳 Zanele Muholi Somnyama Ngonyama

「Best of 1. Mayotte」2015年 © Zanele/Stevenson/ Yancey Richardson



15 FORUM KYOTO

ザネレ・ムホリ Somnyama Ngonyama 黒き雌ライオン、万歳 Zanele Muholi Somnyama Ngonyama

世界的ファッションデザイナーであり、ブランドの創業者でもあるアニエスベーは、現代美術のコレクターとしても知られ、数十年にわたって作品を収集してきた。今回は、その膨大なコレクションから、彼女自身が「LOVE」をテーマにセレクトした写真作品を特別展示する。アンリ・カルティエ＝ブレッソン、オリヴィア・ビー、ライアン・マッギンレー、セイドク・ケイタ、マン・レイ等々の出展作には、知られざる傑作も数多く含まれている。

「オリアヴィ・ビー」Pre-Kiss」2010年 © of the artist and Collection agnès b.



16 美術館「えき」 KYOTO Museum "EKI" KYOTO

ゴールデンウィーク 特別共同企画 amour, amours... from my photography collection アニエスベー フォトコレクション Golden Week Special Program agnès b. Photographic Collection amour, amours... from my photography collection (会期：4/26-5/14) 主催：美術館「えき」KYOTO、京都新聞

「アーティストのための道具づくり」を追求するSIGMAが、独自に収集している写真集の名著800タイトル(和書洋書、新版絶版を含む)を、会期限定で一般に初公開。プライベートコレクションとしては類例のない充実した質量の蔵書が全冊閲覧可能となる。写真に関する各分野の第一人者による「LOVE」をテーマとした特別選書コーナーも常設。

(参考画像) SIGMA presents LIVING WITH PHOTOGRAPHY



17 SferaExhibition

LOVE Photobook Library from SIGMA Collection

戦争、難民、環境問題、大量虐殺など、様々な問題にアプローチし、フォトジャーナリストたちが世界で起きる出来事や、いのちの一場面をとらえた作品が集まる。DAYS JAPAN国際フォトジャーナリズム大賞。DAYS JAPANが13年間開催してきた、大賞の受賞作品で構成する本展には、9.11後の世界が抱える問題と、そこに生きる人々の姿が浮かび上がる。第11回DAYS大賞審査委員特別賞「ガザ」オリヴィア・ヴァンケン (epa)



立命館大学国際平和ミュージアム Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

18 DAYS JAPAN フォトジャーナリズム写真展 DAYS JAPAN International Photojournalism Awards Exhibition

AP Associated Program